



2013年2月28日

片倉工業株式会社
代表取締役社長 竹内 彰雄 様

社団法人 日本建築家協会(JIA)
関東甲信越支部支部長 土浪 寛
同保存問題委員会委員長 左 知子
同長野地域会会長 川上 恵一

片倉工業松本社有地と建物群の保存活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴社は日本の近代化の一翼を担って来た企業として、広くその名を知られるのみならず、製糸の歴史と地域の関わりや、先人たちの足跡とロマンを伝える施設として繭倉庫を片倉シルク記念館として保存活用される等、歴史の継承文化の発展に深くご理解を示されていることに、当会として敬意を表します。

私ども日本建築家協会では、地域の文化を形成する重要な役割を建築が担っていることを認識し、また、それぞれの建築物は永く使い続けられることによってこそ、文化と歴史が継承されると考え、今まで数多くの建築に対し保存・活用の提言を行って来ました。

さて、貴社が松本市に所有するカタクラモール周辺 83,600 m²の広大な土地の再開発を計画していることを知りました。

ご高承のとおり、当地区は片倉工業の生産拠点として松本市工業近代化の中心的な場所であり、カフラス株式会社事務所・工場、生物科学研究所といった長い歴史を物語る貴重な建築と、周囲を囲む豊かな緑は、住民にとってはふるさとの風景です。この地区には昔からの居住者も多く、緑や潤沢な湧水とともに生活しており、また北アルプスの山並みの美しい眺望も地域の魅力です。周辺にはあがたの森公園・文化会館、松本美術館、まつもと市民芸術館があり、ひとつの文化芸術エリアを形成している魅力あふれる地域です。

このように、片倉工業松本社有地は、都市景観と文化形成の面において非常に重要な役割を担っており、松本市のまちづくりの展望を大きく左右する希有なエリアです。合わせて、都市計画の面からも、郊外にある様な大きなショッピングモールをここに新設することで広範囲からの集客が道路などのインフラに負荷をきたさないよう、周辺の街と調和し、当地の好環境を生かした、ここならではの土地利用を期待したいところです。

加えて、建物の歴史的価値を考えると、カフラス株式会社事務所・工場、生物科学研究所は、あがたの森文化会館（旧松本高等学校）とともに、大正・昭和の松本市の近代化を代表する大切な遺産です。今後も、これらの建築を活用し松本の歴史の一端を(生きた形で)後世に伝えるべきであると思います。

当協会としましても、土地利用、建物の保存・活用に関し、できる限りの協力をさせて頂く所存です。

豊かな景観や歴史を物語る建築が、貴社や市民に愛されいつまでも記憶に残る景観として末永く継承されることを心より願っております。

敬具